
PERSONA3~<影より守りし者>~

かみじょー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

PERSONA3～>影より守りし者<～

【Nコード】

N1353Y

【作者名】

かみじょー

【あらすじ】

時は・・・待たない・・・

その言葉の通り、時は止まることなく 流れ続ける・・・

たとえば・・・全ての者が願おうとも・・・

どうも!!!! かみじょーです!!!!!!

初投稿ではないのですが・・・

この小説も投稿したかったのでしました!!!!!!

注意・・・この小説はご都合主義や自己解釈などが数多くあります。
そういう者が嫌い、もしくは苦手な方は戻れを押してください

OKな方は是非読んでみてください!!!!!!

感想やコメントも書いてくれるとうれしいです!!
しかし、作者が傷つくようなコメントはやめてください。

プロローグ（前書き）

この作品を読んでもいただき、ありがとうございます！！！！！！

感想やコメントなどを読んだ後に書いてくれると

とてもありがたいです！！！！

それでは、どうぞ！！！！

プロローグ

時は・・・待たない・・・

その言葉の通り、時は止まることなく・・・流れ続ける・・・

たとえ・・・全ての者が願おうとも・・・

>ポロニアンモール<

「ふわああああ・・・ねむっ・・・」

ここは、ポロニアンモール その中央には巨大な噴水がある。

今は、午前0時・・・いや、午前0時の裏 月が妖しく光る世界・・・

“影時間”

それは、一握りの人にしか知られない、影の世界・・・

そう、一握りの人にしか・・・

「・・・ん？ 人がいるな」

その世界に一人の青年がいた

「あゝ・・・喰われそうだな・・・しょうがない・・・助けるか」

そういつてその青年は、今日も影の世界を駆け抜ける・・・

ここは“影時間”・・・影の世界・・・

化け物の世界を今日もこの青年、神楽かぐら一樹いつきは走り抜ける・・・

「あっ・・・やべっ!!!! 小手を家に忘れた!!!!」

プロローグ（後書き）

いかがだったでしょうか？

この小説は作者の都合上、毎週 日曜日に投稿したいと思います！
！！

それでは、また次回！！！！

1 〈日常を楽しむ者〉（前書き）

次話投稿です!!!

先週はすみません・・・

私が風邪を引いてしましまして・・・

そして先週はとても忙しかったので投稿できなかったです

すみません・・・

後、投稿の日時を変更します

日曜日は変わらないのですが・・・

2週間に1回にします。

すみません・・・リアルに進路が・・・

ちょっと嫌な話になってしまいました。1話どうぞ!!!

1〈日常を楽しむ者〉

「ふわあああ…：ったく、最近まじで睡眠不足だぞ。こらあ…：」

月光館学園の通学路…：俺、神楽^{かぐら} 一樹^{いつき}はつぶやいた。

今は朝、学生である俺は睡眠不足で重い体を引きずりながら学園に登校する。

しかし、俺のクラス奴に…：特に幼なじみに知られないようにしなければならぬ…：

「おはよ。一樹くん」

「おー、おはよう風花」

それは、彼女、山岸^{やまぎし} 風花^{ふうか}に必要以上に心配を掛けなかったためだ。

風花は、さっき言った通り幼なじみで近所さんだ。

「なんか、ちよつといつもより元気ないみたいだけど…：大丈夫？」

「はあ？俺のどこが元気ないって？こんなに元気じゃないか…：か！…！」

そうやって俺は、カバンを地面に置いてからその場でバク天をした。

「よつと、な？元氣だろ？」

「もう、こんなところで変なことしないで・・・恥ずかしい／＼／＼／＼／」

風花は顔をリンゴのように赤くしていた

「ははは！！！わりい、わりい！！」

「もう／＼／＼／＼／／」

まだ、風花の顔が赤いを見ながら、俺は違うことを考えていた

「（最近、シャドウの動きが活発になってるな・・・何かが起こるうとしてるのか？・・・少し、調べてみるか・・・）」

「・・・くん？」

「（となると・・・またあの塔に行ってみないとなのか？）」

「・・・きくん？」

「（ただ、最近はある人たちが出入りしてるんだよな・・・）」

「一樹くん！！！」

「っ！どっ、どうした？風花？」

「ほんとに大丈夫？なんかとても真面目な顔をしてたから・・・」

「なっ・・・なんでもないって!!!! もうほんとに心配性だなあ風花は!!!!」

「けど・・・俺は大丈夫だよ!!! ふうちゃん♪」もう!!! その呼び方はやめてよ!!!!!!
／／／／／／／

「はははは~~~~!!!! 俺がそう簡単にやめると思ったら、大間違いじゃー!!!!」

そういつてから俺は風花から逃げるように学園に走って向かった

「(ごめんな、また心配させちゃって・・・けど、このことはお前にも喋るわけにはいかないんだ・・・)」

俺は心の中で風花に謝りながら走る

そう・・・このことを喋ることで彼女を巻き込むことがわかってるから・・・

そして、彼女を危険にさらすことも・・・

だからこそ・・・

「俺が、守るんだ・・・」

俺は守るために力を使う、それは全て俺の手が届く範囲の人は絶対に守るため・・・

たとえば、そのことを誰も覚えることができなくても・・・

1 〈日常を楽しむ者〉（後書き）

はい、1話です。

うーん・・・文才がほしいです・・・

びみよーなのは私が表現の仕方が下手だからです・・・

すみません。

誤字脱字、あと 感想などをもらえるとうれしいです。

では、また次回！！！！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1353y/>

PERSONA3~<影より守りし者>~

2011年11月17日19時18分発行